



☆そのお話が好きな理由について41件の回答をいただきましたので、ご紹介します。  
皆さんのそのお話に対する熱い気持ちが伝わるものでした。

#### 波のうさぎ(13年2月)

・水原の言葉による表現と、すずによる絵の表現がぶつかるところが好き。

#### 大潮の頃(10年8月)

・筆絵の情景が良いです。

#### 第1回 18年12月

・18歳で大人に成らなければならない当時の時代背景がよくわかる。祖母から教えられた初夜の決まりごとなども興味深い。成長したすずさんの憂いが愛しい。

#### 第3回 19年2月

・お嫁さんに行った先の住所を知らなくて、聞くところです。呑気なすずさんが素敵です。

#### 第6回 19年3月

・呉に戻る前、広島市内でスケッチしていて帰りの列車に乗り損ねるというすずさんらしい展開。戦時中は貨物列車優先で旅客列車が減便されていたのは知っていますが、きっぷ販売も制限されていたのは知りませんでした。

#### 第8回 19年5月

・物資が不足していく中 工夫して 料理する様子が興味深く感じました。

#### 第13回 19年8月

・ありこさんに翻弄されるすずさんと晴美ちゃんが愛おしいですが、結果としてありこさんがその後のリンさんとの出会いのキッカケとなった重要な回だから。

・アリコさんから逃れようと純粹にがんばった結果がすずさんらしくてほっこりする。

#### 第15回 19年9月

・背景の月が美しい。そしてその月も、月明かりで川に映る影にも意味があることも美しく感じる。

・しみじみニヤニヤしとるんじゃのセリフかわいかったので。

・戦時下でも今とそんなに変わらないかんじがしたから。

#### 第16回 19年9月

・以前の展示では男性キャラが中心の原画は推敲の跡が多く、女性中心のときは修正が少ない傾向のようでした。この回の原画は伸び伸びと一気に描きあげた印象でした。

・リンさんの「誰でも何かは足らんぐらいで、この世界に居場所はそうそう無うなりやせんよ」の言葉に、何度励まされ助けられたか分かりません。

#### 第20回 19年1月

・「世の中にはうまの合はぬ人は居るものです。大声にて必ず先に挨拶し威圧感を与へませう」←これッ！！

## 第22回 19年2月

・水原さんが片道切符で戦場へ向かう日か近づいてるなかで、最後に幼馴染みのすずさんに今の気持ちを本音で語るシーンが好きです。「当たり前を過ごしたはずなのに、いつ外れたんだろう」と。この回には平和な生活をしてる自分達からしたら汲み取りづらい沢山のメッセージがあります、そこもまた魅力のひとつです。後は昔好意を持っていたであろう2人のやりとりがとても素敵です。

- ・すずさんが珍しく自分の気持ちを語っている。
- ・哲さんが好き。

## 第25回 20年2月

・りんさんのほかに、テルさんという新しい友達？をみつけ人それぞれの人生を感じたすずさんが好きだから。

## 第27回 20年3月

- ・大潮とどっちにするか迷いました！冒頭の着せ替えとラストの落書きが好き。
- ・教科書の落書きのオチが好き。深刻な内容の中にこういう小さな笑いが混ざっているのがいい。

## 第28回 20年4月

- ・絵面的に大量の桜の花と、りんさんの着物が美しいからです。貰った紅の中に桜の花びらが散ったのも、すずさんの切ない感情を表しているようで素敵です。
- ・桜が綺麗。

## 第33回 20年6月

・好きというよりもしっかりと心に刻み込むお話でした。特に径子さんの「あんたがついて居りながら……」と泣いている姿をずっと覚えています。「死んだ人間は生き返らない」そのことを肝に銘じます。

## 第36回 20年7月

- ・周作さんがすずさんのことをずっと見ていたことがよくわかり「夫婦だなあ」と思った回でした。
- ・すずさんと周作さんのセリフがよかった。お互いを大事に思う気持ちが溢れ、暖かい気持ちになれる。
- ・最大の謎表現 映画でも表現されなかった。

## 第37回 20年8月

- ・すずさんが、径子の後押しによって自分の意志で呉の家に居ることを決めることができたシーンだから。
- ・径子さんがすずさんにあやまって、すずさんが心を開いて、そこから仲良くなるから。
- ・すずと径子の動作と会話！。

#### 第41回 りんどうの秘密(20年10月)

- ・描かれ方が好き。(紅で描いてあるところとセリフがないところ。)
- ・とにかく、口紅で描かれた故に、艶っぽさと儂さが増した絵柄。そして物語。2年前に原画を見たこともあって、その迫力と怨念は、他の回とは違う魔力のような魅力を感じた覚えがあります。
- ・ラストシーン、寄り添うリンとすすさんの絵が悲しくも美しい。そして救いも感じられるから。

#### 第42回 晴れそめの径(20年11月)

- ・残飯雑炊が美味しかった、というだけのお話なのに、空気感から人生の機微まで静かに強烈に伝わってきます。uma~のコマで甘いやら苦いやら、不思議な感情に襲われて読む手が止まってしまう。絵もコマ割りもすべて駆使して話の裏に流れているものを映し出している事に妙技を感じます。とても1つは選べませんが、漫画の凄さをマザマザ思い知らされたこの回に入りたいと思います。

#### 第45回 しあはせの手紙(21年1月)

- ・最後に家族みんなが少女のためにバタバタしだすところが好きです。
- ・地面に落ちた海苔巻きを嬉しそうに拾うほどの空腹な孤児が、手を失ったすすさんを見て母を思い出し、差し出すところで純粹に泣けます。すすさん達と出会ったことで孤児が救われ、そしてすすさん夫婦が救われ、なにより徑子さんが救われたところがこの話の大好きなところですよ。
- ・漫画でも映画でもこの場面が来ると毎回泣かずにはいられません。晴美さんの分も幸せになってほしいと願わずにはいられません。
- ・すすさん周作さんがヨーコちゃんに出会い家族となって灰ヶ峰の家へと帰るシーンが作品中1番幸せで暖かいので大好きです。
- ・失うものばかりではなく、小さな出会いから幸せが訪れるのも人生なのかな~と思いました。
- ・絶望のあとには、必ず希望があると生きる力をくれるから。
- ・予想はしていたと思うもののいきなりつけられた敗戦に納得いかず号泣するすず。失くした右手も晴美も戻るわけもなくやるせなさに身をゆだねるしかないすずが愛しい。
- ・この家族なら、なんか大丈夫だと希望が持てる。

回答していただきました皆様、ありがとうございました。  
呉市立美術館